IATSS三十周年によせて

IATSSフォーラムの想い出

岡村總吾　東京電機大学名誉学長・東京大学名誉教授

1940年東京帝国大学工学部卒業。51年同大学教授、73年工学部長、75年総長特別補佐を経て、78年東京大学名誉教授。81年日本学術振興会理事長、90年東京電機大学学長、99年国際大学理事長などを歴任。90年より96年まで(財)国際交通安全学会会長。

1974年9月に国際交通安全学会が設立されるにあたり、当時東京大学工学部長であった私のところに、学会の会員を推薦してほしいとの御依頼があり、故宮川洋君を推薦し、私も顧問として学会の仕事をさせていただくようになった。この学会の10周年が近づいた頃、当時学会の常務理事の鈴木辰雄さんから、学会の十周年を記念して本田宗一郎さんから多額のポケットマネーを戴いて、東南アジアの各国から30歳前後の将来有望な若者を3か月ばかり日本に招聘して日本のことを学ばせる事業を始めることになり、鈴鹿のサーキット・ホテル内に、そのための建物を建築中だが、この事業を手伝ってほしいとの御依頼があった。私は鈴鹿と同じ三重県の伊勢市の近郊の出身でもあり、喜んでお引き受けすることにした。その後、藤澤武夫さんからも、この事業に役立てるようにとの御意志で多額の株券を御寄贈戴き、この事業が順調に発足することができるようになった。私はこの事業の成否は、優秀な参加者を集められるかどうかにあると考え、参加者の選考に労力と費用を十分かけることを提案し御承諾を得た。そこで最初にスタートしたマレーシアとタイ王国については、私が日本学術振興会時代親交のあったマラヤ大学学長で日本に理解の深いUngku A. Aziz教授と、タイの科学技術エネルギー省常任次官であった Sanga Sabhasri博士（のちに科学技術エネルギー大臣）に両国の委員会の委員長をお願いしてIATSSフォーラムの現地委員会を組織し、他の国々も同様にして次々と現地委員会を設立し、この事業の周知と参加者の募集、選抜をお願いし、最後は我々も参加して現地委員会の方々と共同で面接をして参加者を決定するという現在の方法を確立した。

第1回のIATSSフォーラムは全員マレーシアからで、その開講式には、三笠宮寛仁親王殿下、同妃殿下、駐日マレーシア大使等の来賓が御参加になり、学会側からは本田宗一郎さんも御出席いただき大変盛大に挙行された。

その後IATSSフォーラムはいろいろな改革が加えられ、また参加国も漸次増加して現在に至っている。この事業を始めるにあたって各国を訪問して説明を行った時、いつも質問されたことは、フォーラムに参加した後何の義務があるのかということであった。それに対して「何の義務もない。参加者が今までの日本の成果を見て、日本のよかった点、悪かった点を十分知っていただいて、自分の国の今後の発展に役立てていただければけっこうです」と言うと非常に不思議がって、日本の事業としては今までにないよいやり方だと言って感心してくれた。このIATSSフォーラムが一定の成果をあげて続行することができたのも、現在に至るまでのIATSSフォーラム事務局の方々の献身的な御努力によることはもちろん、地元の方々の絶大な御協力によることと思う。

考えてみるとこのIATSSフォーラムという事業は大変な費用がかかり、しかもその効果が現れるのにかなり長い期間がかかる。従来わが国は比較的に早く結果の出る事業でないと手を出さない傾向があったようで、私の説明を聞いて東南アジアの人々が不思議がったのもこのためと思われる。幸いにして現在IATSSフォーラムの成果は徐々に現れ出しているように思われるので、今しばらく頑張って続けていただきたい。必ず将来大きな成果が出るものと信じている。